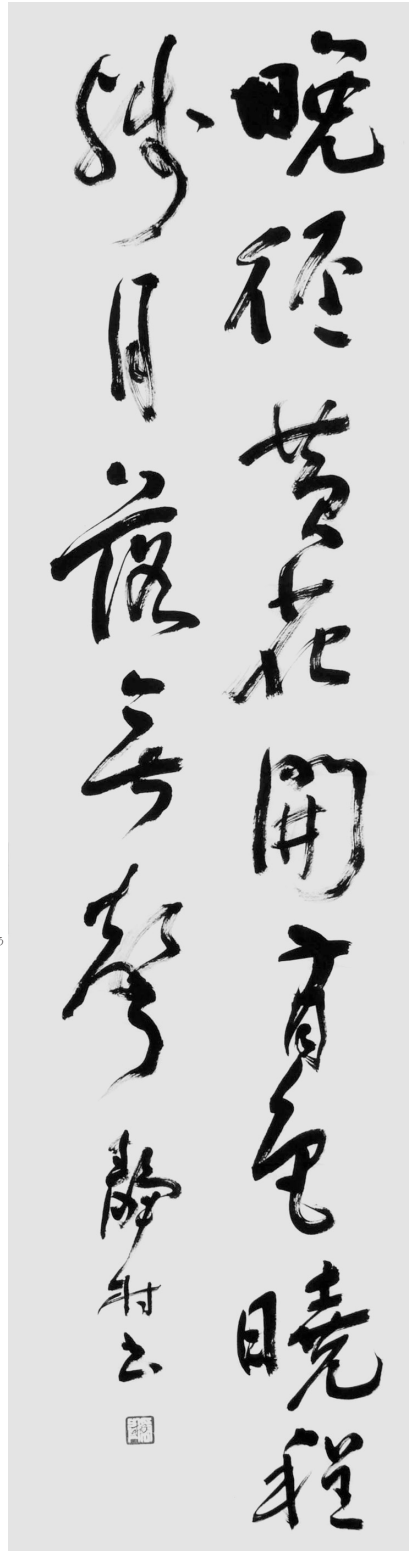


A

鈴木静村書

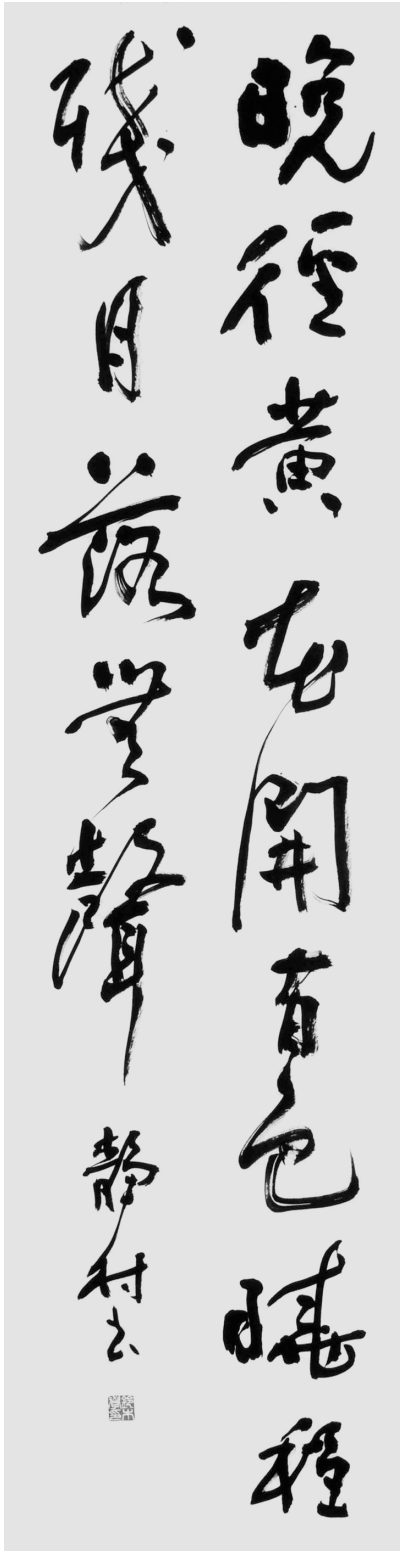
晩徑黃花開有色 曉程殘月落無聲 (査爲仁)
 晩徑の黃花開いて色有り、曉程の殘月落ちて声無し。



B

概観

Aは従来使用の兼毫三号。Bは初めての剛山馬三号、弾性が強いので転折、^承け用筆で意外性が現れ易い。作例としては適切とは言えない。例えは「有」二画「三画」の細線。「程」傍の一目目は短横画に見えるが、これらは共に強い弾みによる特異現象。疑問の場合は必ず「字典」が鉄則であること。



主な文字について

晩 A旁5〜7画続け、B5画を省いた異体。徑 旁に相違。黄 A草体から花へ連綿。B線に張りなし失敗各自打開を。花 B開へ長い連綿。ムリなく自然に。開 A門構え右、円曲気味に払う。有色 墨継ぎ。用筆の相違に留意。曉 B草体、筆順注意。残 行草共のびやかに。落 墨継ぎ。無声 頻度が高い、字典参考に。

訳：夕ぐれのかみちには菊の花が黄色にさいて美しく、夜あけに行く道の残月は音もなく落ちていく。

予告 (二月二十二日締切)

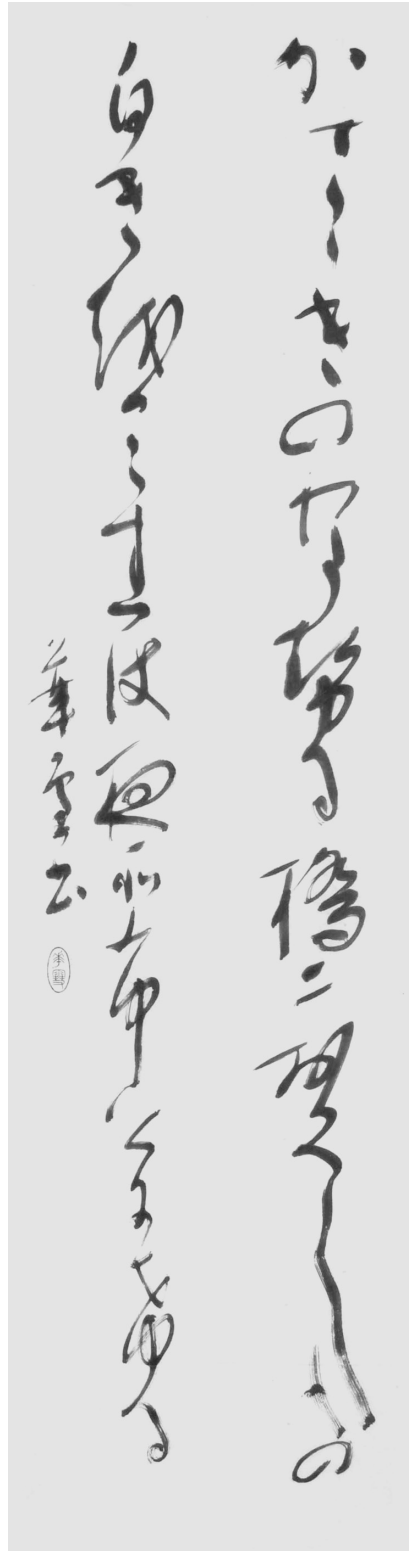
雪花被岸中流黒 雲氣涵山衆壑虚 (張公薬)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

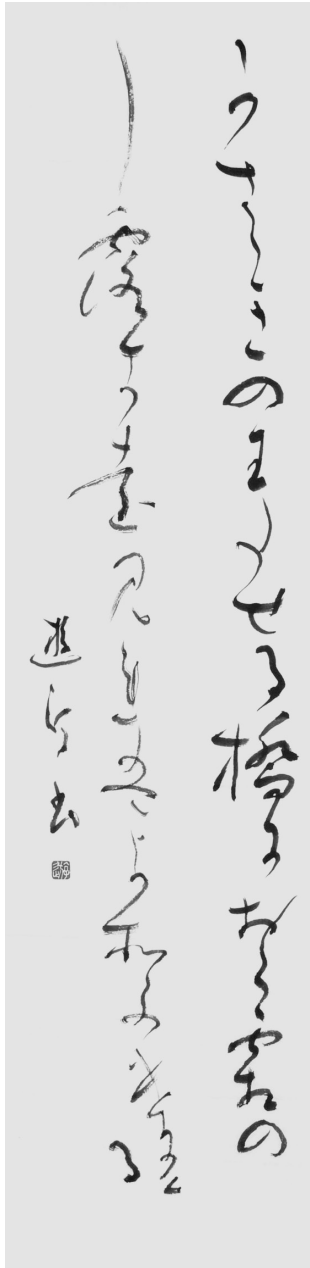
かさゝぎのわたせる橋におく霜の白きを見れば夜ぞふけにける (新古今和歌集 中納言家持)
かさゝぎのわ多勢る橋におくしもの白き越三連は夜所布介尔希る



B

立川遊汀先生書

かさゝぎの王多せる橋におく霜のし露支遠見連盤よ所ふ遣尔介る



高野切第三種について

現存する古今集の写本の中で最古のもので、高野山でその断片が発見されたことから、高野切古今集と呼ばれるようになりました。

筆者は伝紀實之とされておりますが、正しくは三人の能書家によって書かれたものと推定されており、それらは一種、二種、三種と呼ばれ、それぞれ三様の特長のある書風を示しております。

学 び 方

今回は新古今和歌集から大伴家持の短歌。七月七日の夜、七夕の二星、牽牛星、織女星が逢う時、鵲がつばさを並べて天の川にかけると伝えられる橋、こんなロマンチックな情景を想像しながら古典調で書いてみました。
一般にかな古筆の学習は高野切第三種からといわれております。この高野切第三種の書風、線質を頭の片隅にイメージしながら直筆で表出しました。
・筆は羊毛長鋒5号 ・用紙は古典調ですので滲みの少ない加工3号を使用

そして第三種の書風は、軽快で、明るく、単純化され、運筆も流れるようで、初めてかな古筆に接する人でも親しみの持てる平易さがあると言われております。

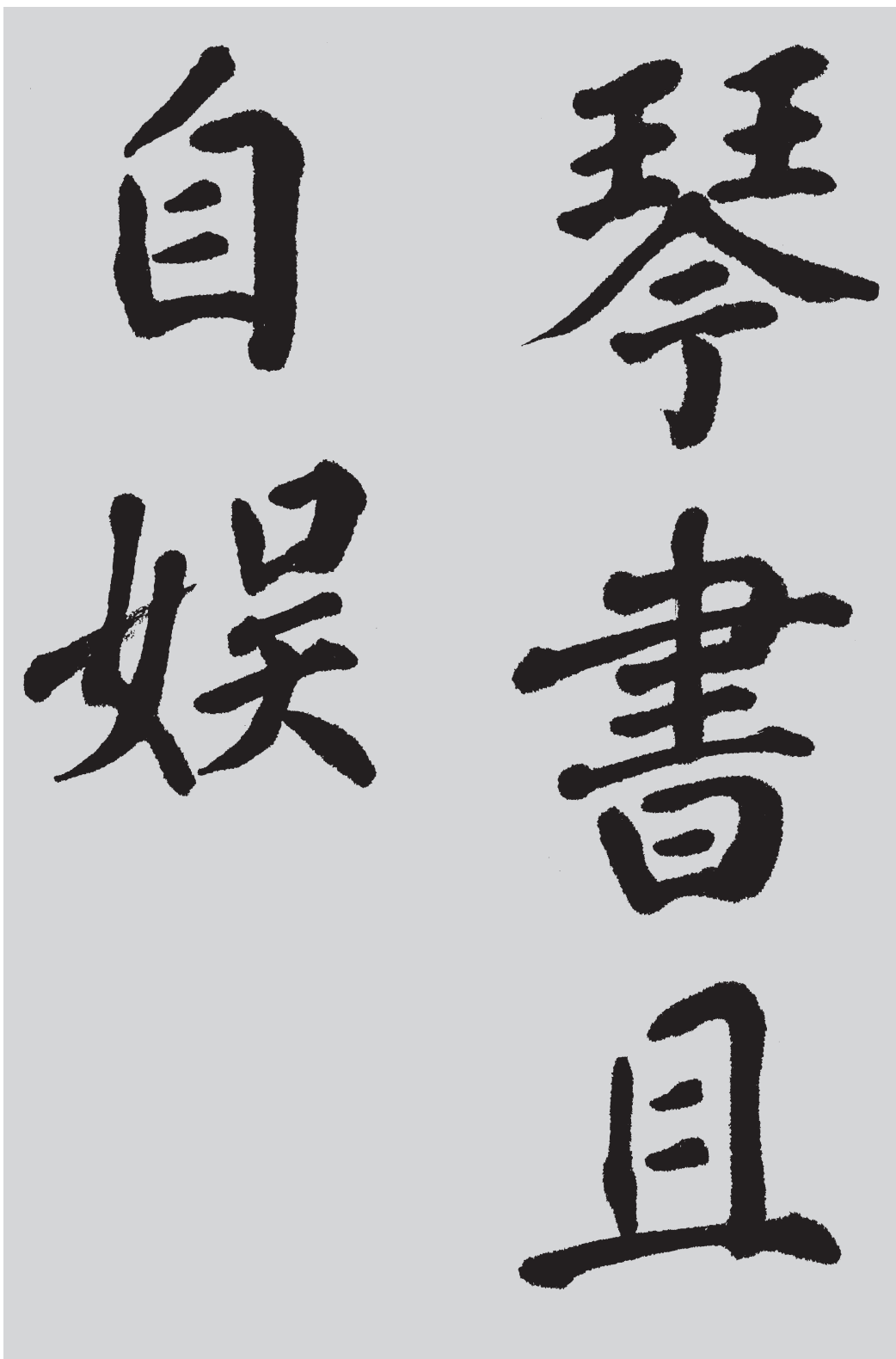
予告 (一月二十二日締切)

つつまじきひとりあるきのさみしさにあせ菜の香すら知りそめしかな (北原白秋)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

琴書且つ自ら娛む(念奏樞)

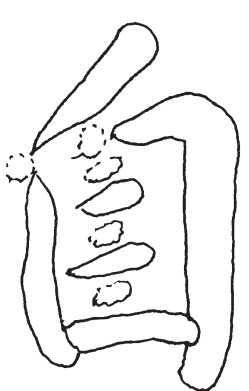


訳：琴をひき書を読みみずから娯楽としている。


▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ①漢字部
- ②支部名または都道府県名
- ③氏名または雅号
- ④新


会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。




参考




歐陽詢




王羲之



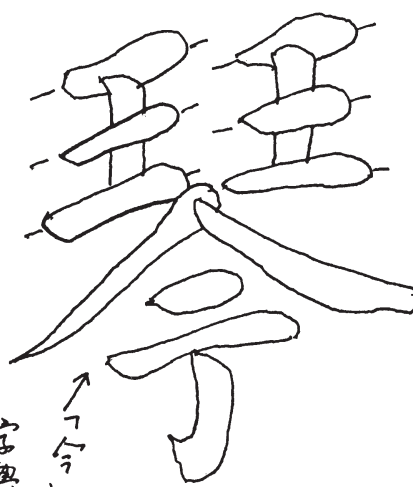
歐陽詢



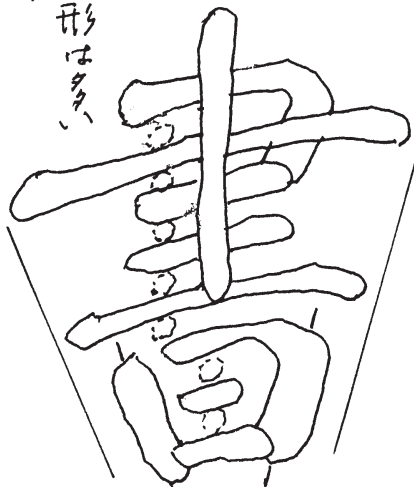

黄庭堅



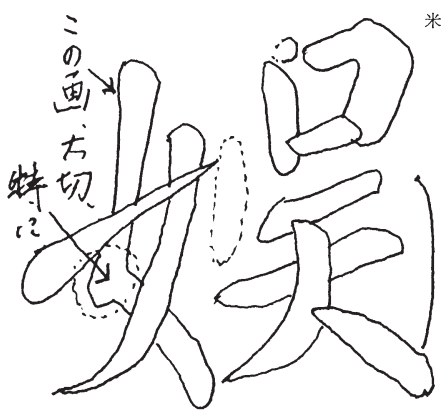
米芾



「今」の形は「今」の字より。

この画、大切
特に



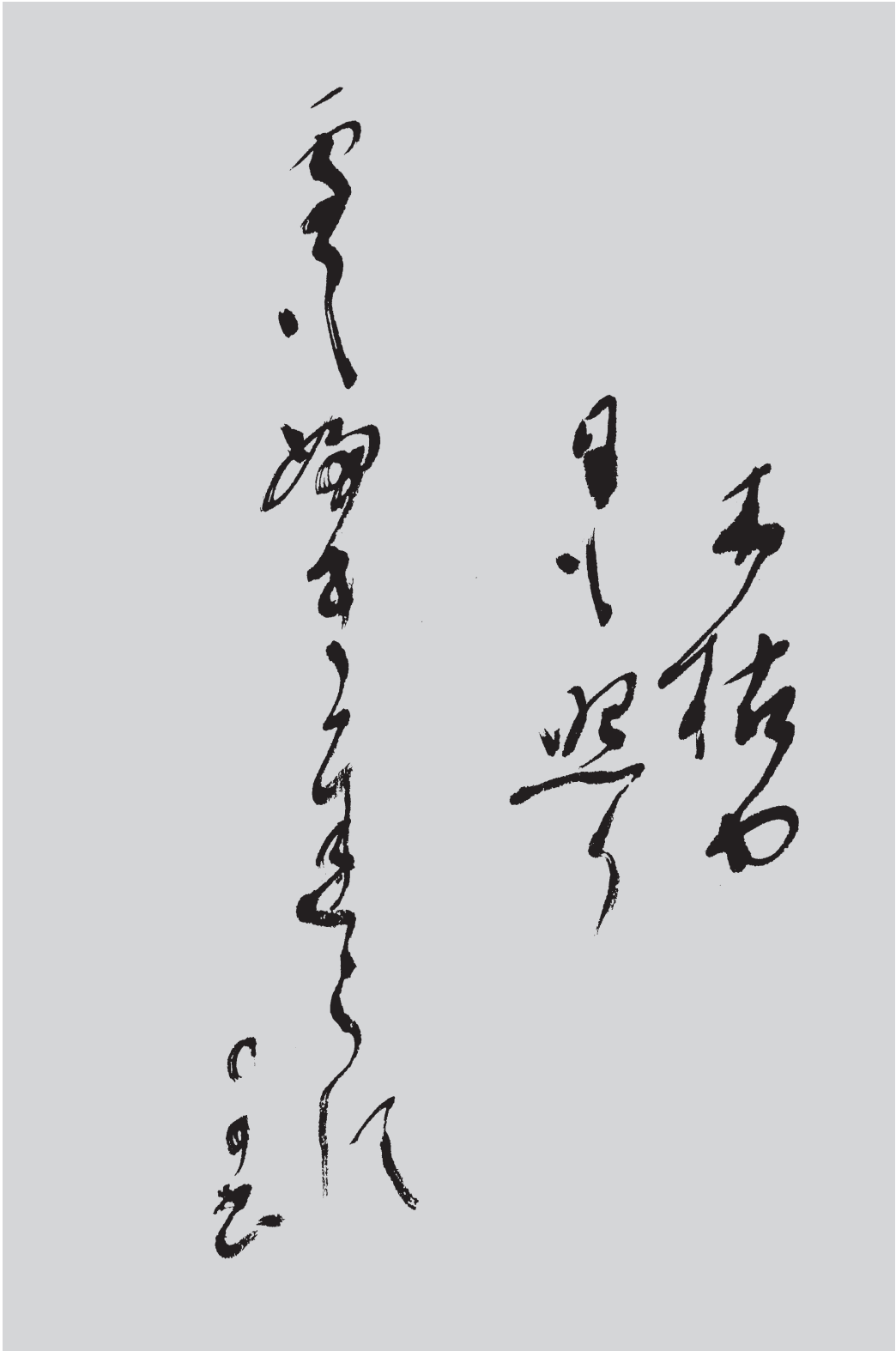
この形一般的

へ自について

いろいろの形に書ける文字。
一、二、三画の「接筆」の組み
合わせ。中の二つの横画の位置
と長さ、終画を左へ出すが、出
さなければ……無限に「天」しめる。
参考「古典」を参照のこと。

平岡華雪先生書

こがらし
凧こがらしや日も照り雪も吹ふきちらす(樗良)



▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ①漢字部
 - ②支部名または都道府県名
 - ③氏名または雅号
 - ④新
- 会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

すっくろさせたい。二行目「日、し」と放ち書き、「照」の群のポイント、字幅をとりた。左群「婦」の墨を継ぎ、下五は五字連続、初歩好踏心はあがらない。特に、変体かな「婦、遅、須」等は単体をとりつらりと習熟せよ。

一筆小感

右群「木枯や」の長い連続線、この線のせむと失敗、「流」の表出む。

婦 (婦)

遅 (遅)

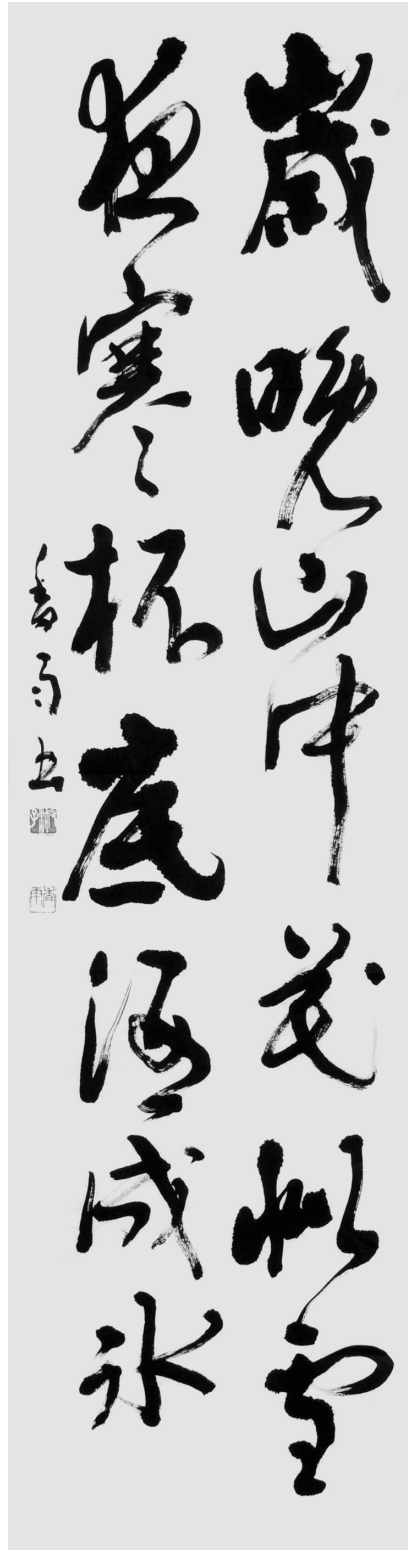
須 (須)

婦 遅 須

か

酒井香雨先生書

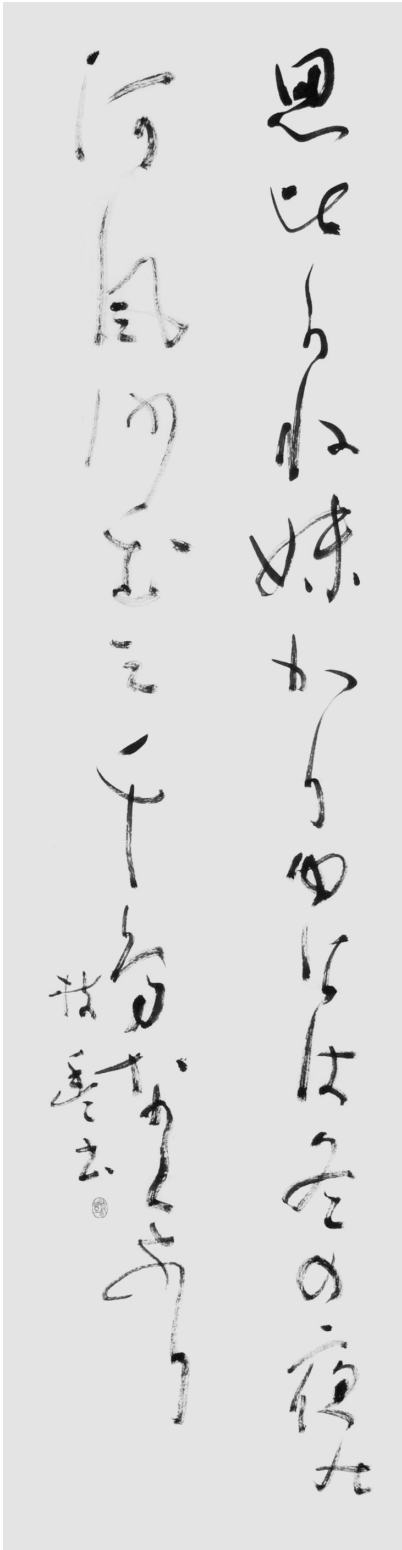
歳晚山中花似雪 夜寒杯底酒成氷（陳純）
 歳晚山中花雪に似、夜寒杯底酒水を成す。



訳：歳のくれの山中の花は雪に似て、夜寒の頃に把る杯には酒が氷となった。

鈴木枝豊先生書

思ひかね妹がりゆけば冬の夜の河風寒みちどり鳴くなり（拾遺和歌集 紀貫之）
 思ひかね妹かりゆけは冬の夜の河風寒みちどり鳴くなり



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

外川霞夕先生担当

九成宮醴泉銘 唐 欧陽詢

※条幅臨書部は出品料無料です。是非チャレンジを！



(良) 足深尤、至於炎景流金、無懣蒸之氣
深く尤^{とが}むるに足^たるも、炎景、金に流すに懣蒸の気なく。

概観

九成宮の基本の点画

- ・横画
シンプルな感じであるが強靱で弾力がある直線に近い。
始筆は軽く後半終筆近くは重い。太さも右に進むほど心もち太い。
- ・縦画
直線に近いが中心部が引きしまった感じ、背勢になるよう湾曲にしている。
重要なたて画は上に突き出した感じ。
左払い
ゆるみなく力強い。
円弧に添ったそり方で書かれている。
- ・右払い
斜にあてて末端まで力を抜かず払い出す。
直線的であり抑揚がない。
三過折の法。
はね出し部分は比較的鋭く重みがある。
- ・ハネ
縦画の終わりはハネは短く力がこもって鋭い。中側角度はいつも直角である。
- ・戈法
戈^{はしつゝ}の長い斜画は九成宮の特徴
抑揚をつけず方向をさだめてから筆を立て充分反りをもつて書く、ハネは短く鋭い。

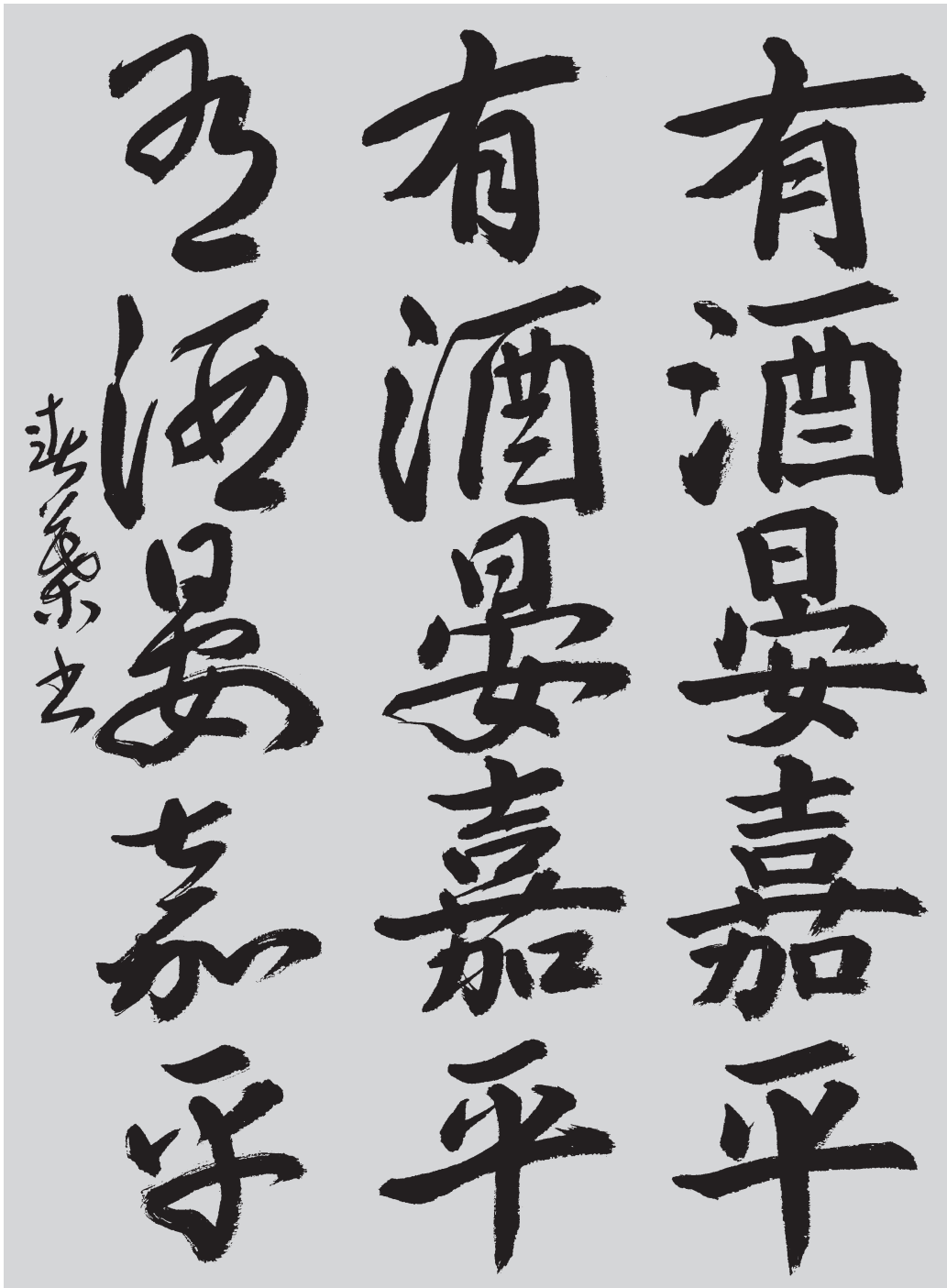
各字のポイント

- 深 ^{さなずい} 一三画つながるように、下の点をはね上げる。
- 炎 文字が左方に傾きがあつて右下方に拡がりを見せている。
- 無 四本のたて画を書いても狭くならないように、三横画は一横画より広くあけてある。^{ねが}点はずべての向き、長さ、強さを變えて全体を受けとめている。
- 爵 寸のたて画は上の木のたて画より右に出して安定させてある。
- 氣 まがる時筆をとめて斜にはね上げる。

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

小林 春葉 先生 書

有酒晏嘉平
酒有^{さあ}り^{かひ}嘉平^{かへい}に^{やすん}晏^{やすん}ず。

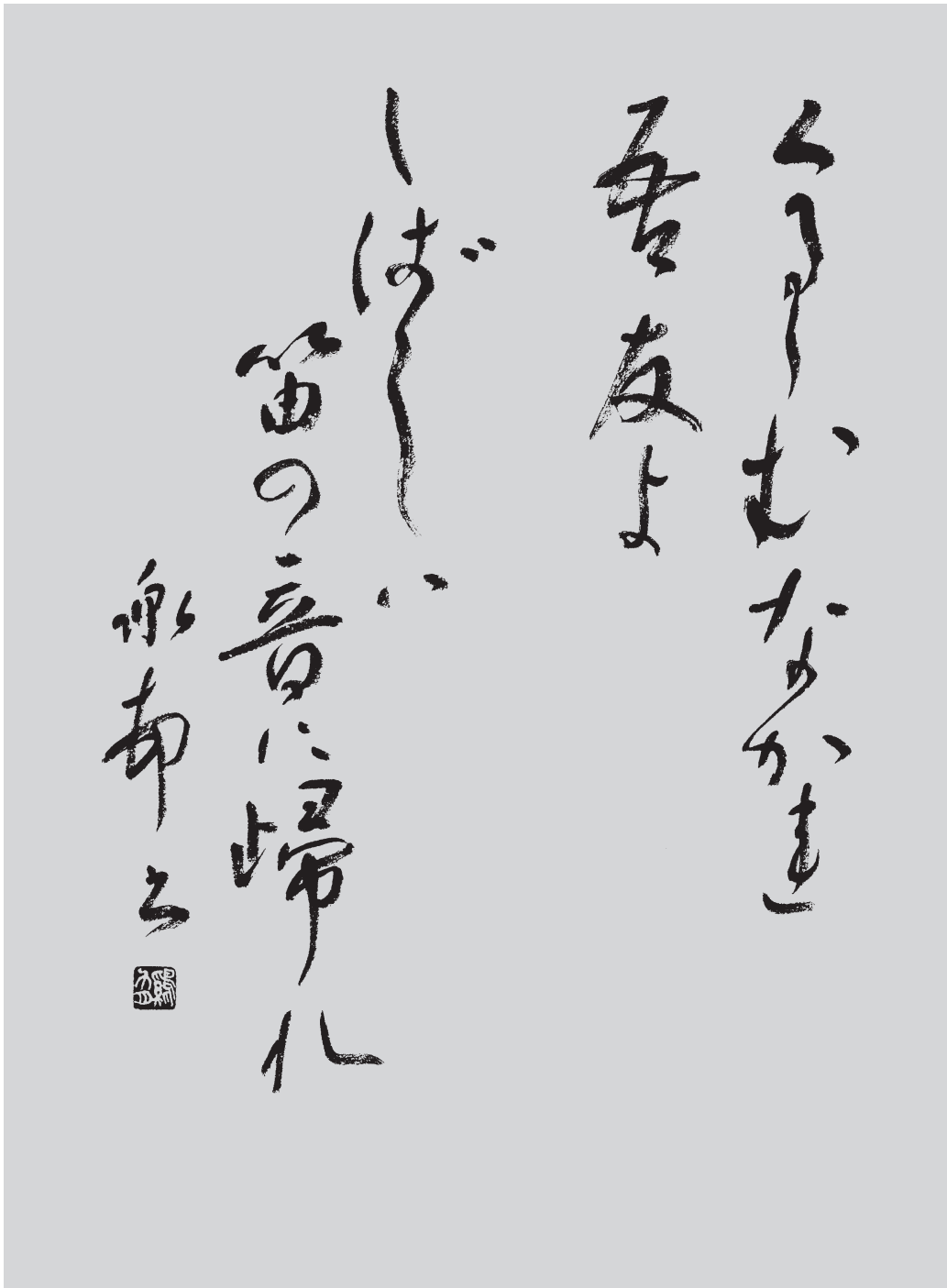


訳：嘉平は十二月の異称、酒ある故に師走に安んずる意。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

加藤 泉 邨 先 生 書

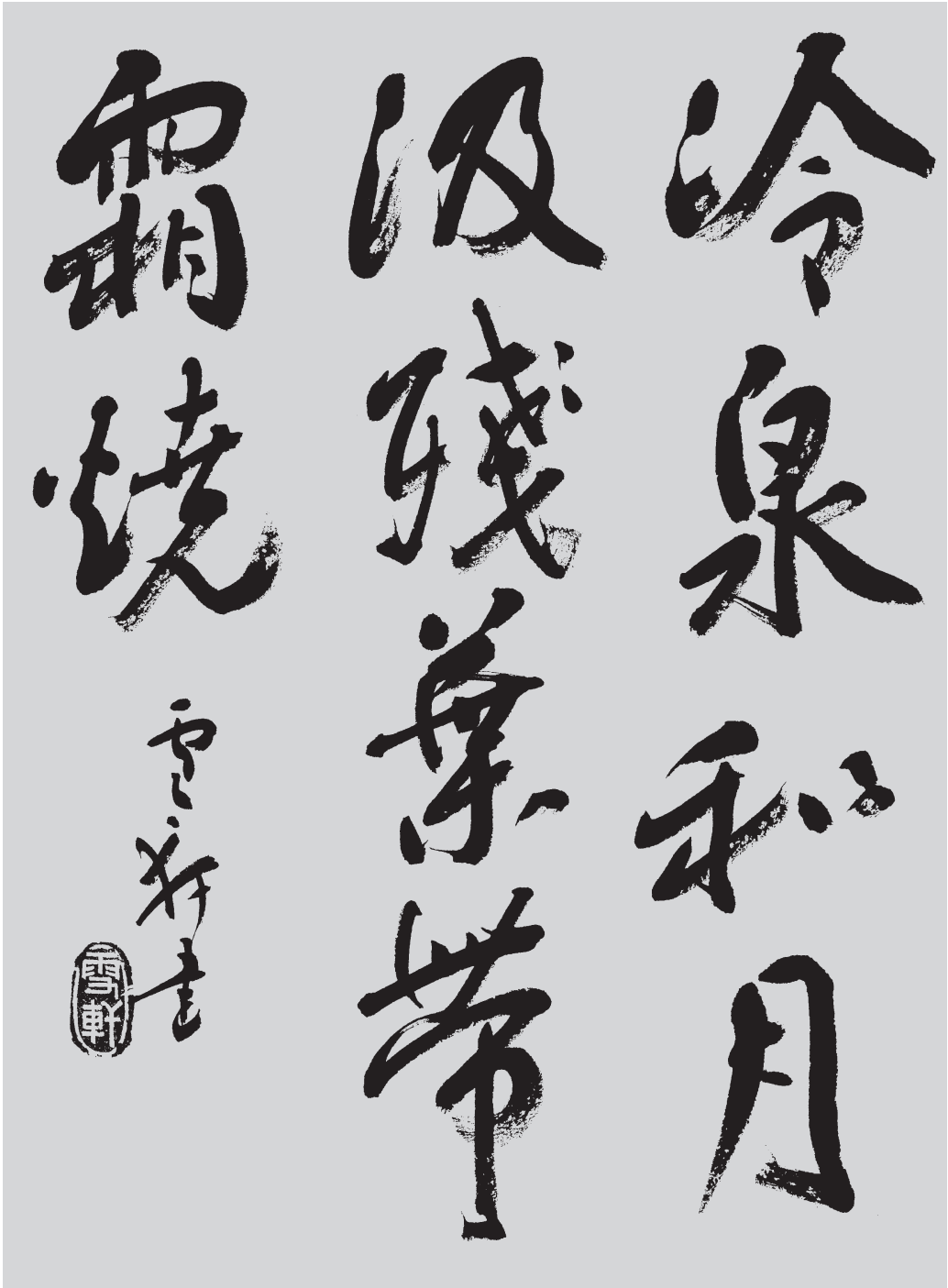
くるしむなかれ吾友よ
しばしは笛の音に帰れ（島崎藤村）



◆随意部参考として出品してください。

遠山雪軒先生書

冷泉和月^{れいせんわつき} 残葉帶霜燒^{ざんようしも}（方壺）
冷泉月に和して^わ汲み、^く残葉霜を帯びて^お焼く。

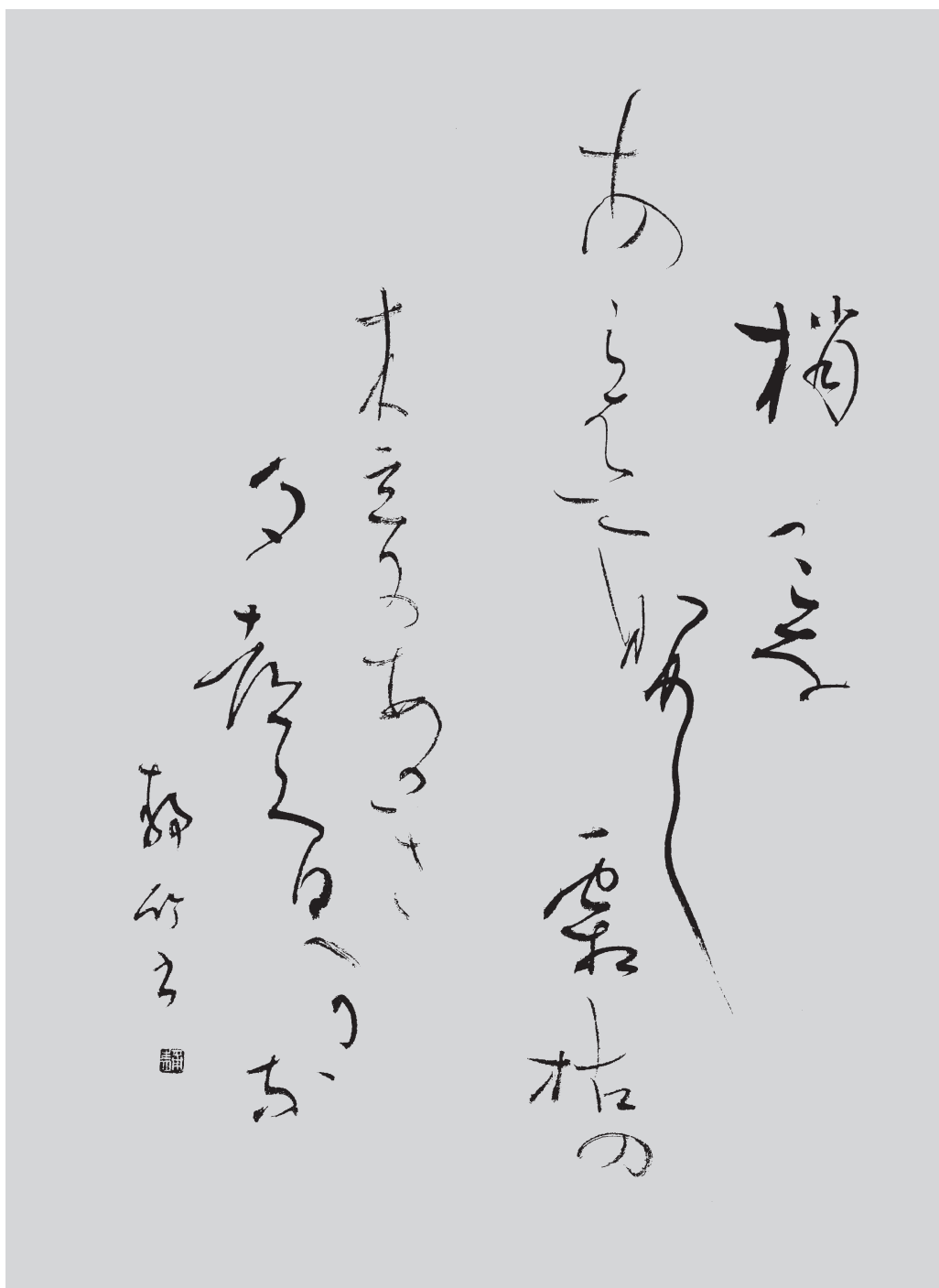


訳：冷やかな水を月影とともに汲み取り、落葉をかき集め霜のかかるままを焚いて湯をわかす。

添削又は手本希望者は本会規定により、遠山雪軒先生（〒447-0846 愛知県碧南市中町4-52）に直接お申し込みください。

鮎川静竹先生書

梢^{こずえ}みならはになりし霜枯^{しもがれ}の木立^{こだち}にあかき夕^{ゆふ}づく日^ひかな
梢^{こずえ}三奈^{みな}あら者^は二那利^{にたり}し霜枯^{しもがれ}の木立^{こだち}尔^にあかき夕^{ゆふ}都^{つく}久^く日^ひ可^か奈^な
(佐佐木信綱)

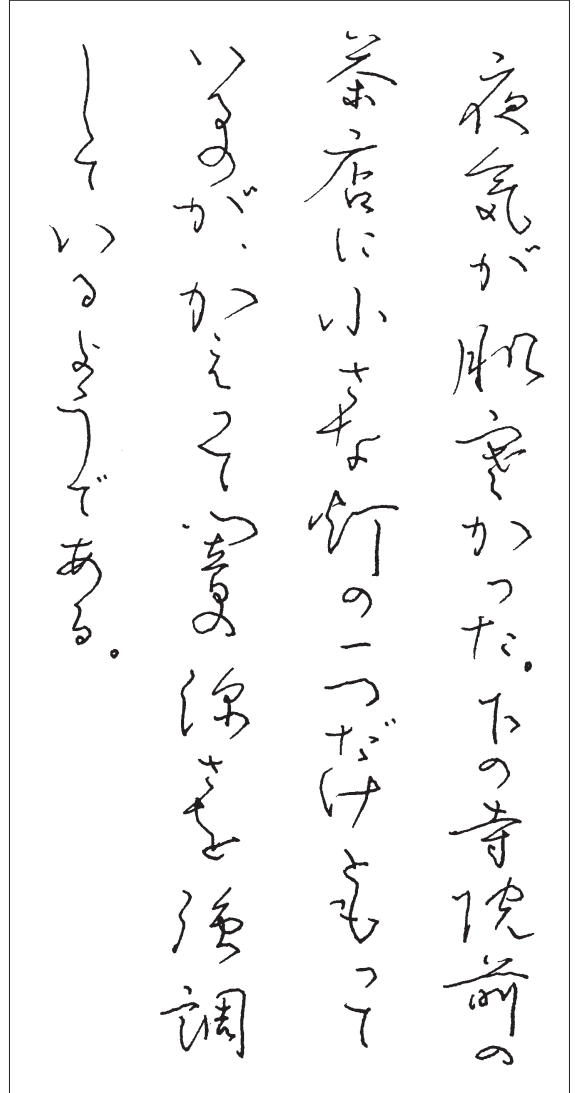
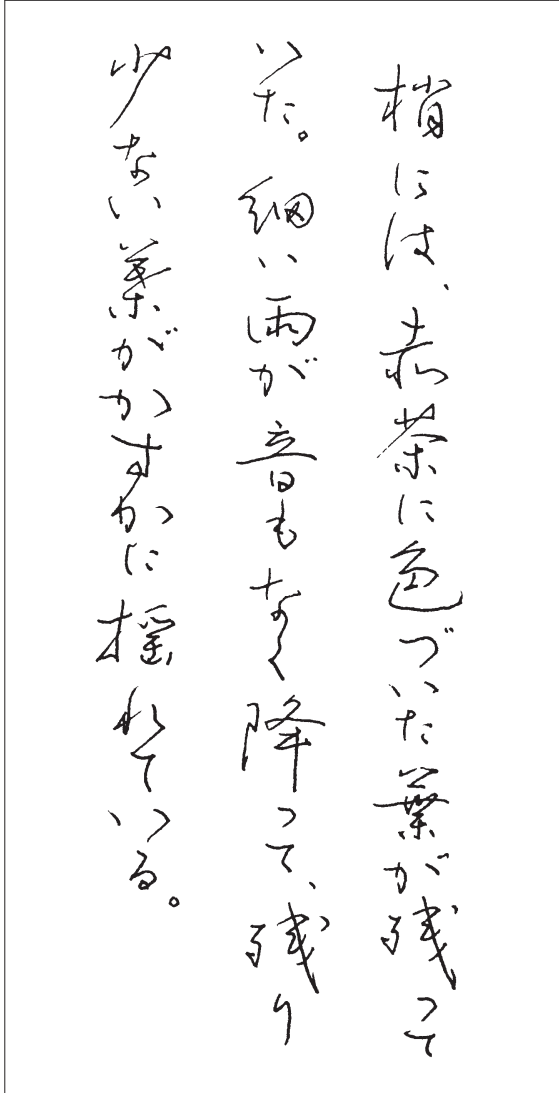


添削又は手本希望者は本会規定により、鮎川静竹先生（〒145-0063 大田区南千束1-23-7）に直接お申し込みください。

喜多波竹先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)



課題 1 (初段階以上)

夜気が肌寒かった。下の寺院前の茶店に小さな灯の一つだけもっているのが、かえって闇の深さを強調しているようである。

〔神々の谷インド・ガンゴドリ紀行〕

中野孝次

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に、次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 受験料は九〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題 1 六〇〇円
- (6) 課題 2 三〇〇円

課題 1 喜多波竹先生

課題 2 〒二四〇一〇〇六一

横浜市保土ヶ谷区岡沢町

二一九ノ三

課題 2 (初段階以下)

梢には、赤茶に色づいた葉が残っていた。細い雨が音もなく降って、残り少ない葉がかすかに揺れている。

〔紅焰〕 木下倭子